流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和六年四月句会（第一四三回）

兼題　［ 春灯 ］

開催日　令和六年四月二十七日

開催場所　生涯学習センター

出席者　六名

投句者・選句者　七名

（五 点 句）

●料峭や襟掻き合わせ立ち話　　徹心

選評…まず料峭と言う言葉に衝撃を受けました。この年で全く初見の日本語が出てきたからです。内容的には菅原さんが解釈されていたように私もゴミ出しの時、すぐそこまでと羽織っていかなかったため寒くて襟元を掻き合わせながらの立ち話が度々ありました。俳句では端的な表現を身につけていると句作りが楽になること、語彙の豊富さが求められると実感させられた句でした。

（小 牧 記）

（四 点 句）

●小面や檜舞台の春あかり　　互酬

選評…リズム、字面、内容の非日常性が良いと思う。辞書によると小面（こおもて）とは、能面の一つで、あどけなさを残した、かれんな若い女の面のこと。その面が舞台の上で暖色の柔らかい照明にあたっているのだ。ヒノキの清々しい香りも感じられる。能の舞台を鑑賞し続けた作者ならではの秀句である。

（玄 鳥 記）

（三 点 句）

春灯のゆれて祇園へ歩を重ね　　小牧

長鳴きの鳥に呼ばれて花辛夷　　玄鳥

土深く潜む野蒜の玉真白　　寿歩

（二 点 句）

歩道橋行くや媼の春日傘　　互酬

春燈に誘われ入りぬ知らぬ知らぬ酒場（バー）　　徹心

墓地包むしだれ桜は半世紀　　小牧

田舎道若い遍路の身だしなみ　　小牧

（一 点 句）

手のひらの完走メダル春ともし　　玄鳥

老妻も少し若見え春燈下　　徹心

春の灯の食堂老女いそいそと　　寿歩

春の灯に揺れる心は初恋か　　艸寛

春風が戦ぎ戦く戦場に　　互酬

花吹雪雨の舗道にへばりつき　　夢心

去る者は追わぬ流儀や　　玄鳥

食卓の海棠はらり井戸の碗　　寿歩

雲雀鳴く天仰ぎ聴く草枕　　艸寛

（ 投 句 ）

無人家の自動点滅春燈し　　夢心

盛大に桜散る散る人満ちる　　夢心

こんもりと吹き溜まりたる春落葉　　夢心

道草や橋下潜り子鮒追う　　艸寛

初花や南の門の斜面より　　寿歩

式の字の撥ね上げ掠る入学式　　玄鳥

下校道オタマジャクシに挨拶す　　艸寛

「桜咲く」合格電報ありし頃　　小牧

能登半島田鼠化として鶉と為る　　互酬

欧米人こぞって絶賛桜花の美　　徹心

『句会後記』

今月の兼題は「春灯」で、春の灯り春の華やかさとともに艶めいた雰囲気のある季語でした。

その兼題に対し「春ともし」「春燈下」「春あかり」「春燈し」「春の灯」など、それぞれの作句者の五七五の流れや韻、内容によりきれいに使い分けされていました。

最近のゆずりはの会員は、俳句に対する向き合い方や見解や技巧などについて、益々研究心や深耕が感じられます。尚、今回は欠席の夢心さんは選句に対して事前に評句してこられ、充実した句会でした。

（互 酬 記）